

議長賞

理想の未来

堺市立 八下西小学校 六年

上羽 佑実

たん任の先生が授業で教えてくれた、ある学校の校長先生の言葉。『学習は、競争ではなく協働だ。』この言葉を聞いたとき、私の重かったまぶたがいつきに軽くなった。

この話の中には続きがある。それは、競争すると格差ができる。そして、上の位の人たちが下の位の人たちを見下す。すると、たえきれなくなった見下された人は、心が傷ついてしまい、命をそまつにするという行動に出ることがあるということだ。

私は考えた。学習することはいいことだ。しかし、学習をすることであれかが命をそまつにするような教育社会になっては、だめだ。この話の中に出た『命をそまつにするという行動』には、大きく分けると二つの種類がある。それは、自らの命をそまつにする行動と他人の命を傷つける行動だ。ここからは、他人の命を傷つける行動に目を向けて考えてみようと思う。

他人の命を傷つけるといふ行動は、犯罪というわくに入る。犯罪とは「罪を犯す」こと。罪は法によって禁じられた行為のことだ。この罪の中でも、「傷害罪」という。他人を傷つける行為は、

どんな理由があってもやってはいけないことだと考えている。「どんな理由」とはすぐには思いつかないだろうが、私は、うらみやにくしみの心が主な理由の一つと思っている。そして、そんな心が生まれる何らかの原因について考えてみた。

まず、上下関係、格差、差別など様々な人間関係の中でもめ事が起こり、そこからうらみやにくしみの心が生まれることがあると思った。しかし、それらの人間関係だけが原因とは思えない。

身のまわりの環境にも原因があるのではないだろうかと考えた。例えば、育った場所、生活リズムや生活習慣、それぞれの家庭の様子など、その人が成長していく環境によって様々な心ができていくと思った。

この他にもうらみやにくしみの心をもつ場合があるだろうが、原因となることを全てなくせば、そんな心もなくなり、犯罪も少なくなるだろうと思う。もちろん、人間関係の問題やそれぞれの身のまわりの環境の問題などを解決してうらみやにくしみの原因をなくすといっても、そう簡単なことではないことはわかってい

るつもりだ。私一人の力では難しいことだろうが、今は、ほんの少しでも自分が力になれることはないだろうか、考えてみた。結果、一つの答えにたどりついた。それは、身近な人たちの悩みを聞くことができ、頼る先の人という存在になることだった。

以前にこんなことがあった。初めて同じクラスになり、あまり親しくしてこなかった女の子がいた。おとなしくてとてもまじめな子だった。その子が日直の日の帰りの会の時に、一人の男の子が、自分が早く帰りたい一心で「はやくしろ。」といいながらけつてしまった。そのきつい言葉とつ然の暴力で、心に深い傷を負ってしまい、休み時間はその男の子が見えないように、保健室で過ごすようになった。その状況を知った私は、その女の子の相談相手の一人となった。徐々に女の子は明るさを取りもどし、強い心を持ち始めた。その男の子が優しい心も持ち合わせていることにも気付いてくれた。時間がたつにつれて、おたがいに良い関係がとれるクラスの仲間となった。この経験で、いろんな友達のためになる生き方をしたいこうという思いが強くなった。

以上のことから、私なりのしよう来の夢が見えてきた。『カウンセラー』になることだ。まずは、身近な人の悩みを解決すること、しよう来は、同じような目的を持った人たちと力を合わせて、日本中の人々から悩みを消していき、うらみやにくしみの心の原因をとりのぞき、犯罪がなくなり、警察官という職業がいららないの

ではと思える社会、いや、世界になってほしいと願う。犯罪、それはどんな理由があってもやってはいけないこと、このことがこれから先、何百年も何千年も人類の心に強く刻みこまれてほしい言葉の一つだ。私はそう考える。

